

# 「造形遊び」などで園児と交流

## 浦河町と札幌国際大学 地域連携事業公開講座

浦河町と札幌国際大学で、町内の幼稚園・保育園の園児らに学生考案の遊びを提供し、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごす。札幌国際大学短期大学のゼミ生25人が町総合文化会館ふれあいホール

浦河町は、札幌国際大



「造形遊び」で園児と交流する学生

互に連携協力している。公開講座は、子育て支援分野の地域連携事業の一環として、学生たちが主体となってプロジェクト活動を行う「保育プロジェクト演習」の成果発表の機会として実施するもの。

学生たちはこれまでに、課題解決型学習として、保育・幼児教育の現場で、子どもたちの安全に配慮しながらも夢中になって楽しめる遊びのアイデアを出し合って検討を重ねながら、「運動遊び」と「造形遊び」の2分野の遊びを企画。今回、町内の浦河フレンド森のようちえん、夢の国幼稚園・保育園、雛菊保育園の年長組園児が学生たちの考えた遊びを体験した。

9日は、浦河フレンド森のようちえんの園児20人と学生たちが先生となって、一緒にさまざまな遊びに挑戦。このうち、造形遊びでは、手や足に好きな色の絵の具を付けた子どもたちが2歳30名×2歳40名の画用

紙の上で、思い思いに色を乗せ巨大な絵画作品を完成させた。運動遊びを担当した伊藤桜優(みゆ)さんは「ゼミのメンバーで子どもたちが楽しいと思ってくれているような遊びを考えてきた。改善点も見つかったけど、子どもたちが楽しんでくれたので頑張ってきたかいがあった」。造形遊びを担当した永野このはさんは「子どもたちが想像以上に楽しんでくれてよかった。4月から札幌で保育士となるが、遊ぶ時も叱る時も全力で子どもたちと関わっていただける先生になりたい」と話していた。

学生らは浦河に滞在中、浦河フレンド森のようちえんの園舎見学のほか、乗馬やスケート、優勝ピレツシアエルでの星空観察などを体験しながら町への理解も深めた。